

小学6年 適性検査E — 解答と解説

(1)
ウ

21

(2) (例)
食べ物が細かくなって表面積が大きくなる

22

(3) (例)																			
消	費	者	に	と	っ	て	は	、	地	元	で	と	れ	た	も	の	を	新	せ
ん	な	う	ち	に	食	べ	る	こ	と	が	で	き	る	点	が	、	一	方	、
生	産	者	に	と	っ	て	は	、	消	費	者	に	直	接	売	る	こ	と	で
反	応	や	ニ	ー	ズ	を	知	る	こ	と	が	で	き	る	点	が	メ	リ	ッ
ト	と	考	え	ら	れ	る	。												

23

(4)	(5) ①
ア・カ	127000 t

(完答) 24 25

(5) ②					(6)			
A	24.1 %	B	20.0 %	C	8.9 %	D	5.6 %	イ

26 27 28 29 30

(7) (例)
全国の取扱量が少ない冬の時期に出荷すると、他の時期に比べて高値で売ることができるから。

31

(8) ①	(8) ②
ウ・エ・オ	9 通り

(完答) 32 33

(8) ③ (例)		
主なおかず	他のおかず	汁物
オムレツ	大根サラダ	みそしる

(完答) 34

【解説】

給食と調理をテーマにした問題

(1) **A2** 情報を獲得する 推論

うどんにはでんぷんが、ごぼうには食物繊維が、オレンジジュースには糖分が多くふくまれています。ミネラルウォーターには、カルシウムやナトリウムなどのミネラルがふくまれています。炭水化物はほとんどふくまれていません。

(2) **B1** 情報を獲得する 比較 推論 関係づけ

(㉞)には、よくかむことで消化されやすくなる理由があてはまります。かむことによって細くなった食べ物はかむ前に比べて表面積が大きくなるため、消化液が混ざりやすくなり、消化がよくなります。

この問題では、①よくかむことで消化されやすくなる理由が、「表面積」という言葉を用いて書かれているか、②①の内容に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、③表記や表現に誤りがないかどうかを中心にしています。

(3) **B2** 情報を獲得する 特定の状況を仮定する 一般化する 具体・抽象

地産地消による生産者にとってのメリット(利点)として、輸送費が安くなる、新鮮なまま食材を消費者に提供できる、地元の人から商品の評判を直接聞くことができるなどが考えられます。また、消費者にとってのメリットとしては、新鮮な食材を安い値段で手に入れることができる、生産している人を身近に感じることができるなどが考えられます。自分なりに考えて答えましょう。

この問題では、①地産地消を進めることによる生産者にとってのメリットが書かれているか、②地産地消を進めることによる消費者にとってのメリットが書かれているか、③①、②の内容に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、④表記や表現に誤りがないかどうかを中心にしています。

(4) **A2** 情報を獲得する 知識

夏が旬となっている野菜には、冬に促成栽培(はやづくり)されるものがあります。アの「トマト」は促成栽培で冬にも出荷されています。

(5) **B1** 情報を獲得する 再現する

① 生産量と全国にしめる生産量の割合が示されている高知県の数値を用いて計算します。高知県の生産量12,400 t が全国の9.8%にあたることから、 $12,400 \div 0.098 = 126,530 \dots$ より、127,000 tとなります。

② ①で求めた全国の合計127,000 t を用いて、A・B・C・Dの割合を求めます。

A $30,600 \div 127,000 = 0.2409 \dots$ より24.1%

B $25,400 \div 127,000 = 0.2$ より20.0%

C $11,300 \div 127,000 = 0.0889 \dots$ より8.9%

D $7,100 \div 127,000 = 0.0559 \dots$ より5.6%

(6) **A2** 情報を獲得する 比較 推論

東京は、岩手県盛岡市より南に、宮崎県宮崎市より北にあります。イが東京の月別平均気温で、1月～12月の気温はいずれも盛岡より高く、宮崎より低くなっています。なお、アは北海道札幌市、ウは沖縄県那覇市のものです。

(7) **B1** 情報を獲得する 比較 特徴的な部分に注目する 具体・抽象

夏が旬のピーマンを冬に栽培する第1のメリットとしては、【資料3】を見ると、冬場はピーマンの取扱量が大きく減るため、競争相手も減ることが挙げられます。第2に、夏に栽培する場合(露地栽培)に比べて、卸売価格が高くなることが挙げられます。【資料4】を見ると12月には1kgあたり625円の値をつけています。一方で、5月から10月は他の時期よりも安くなっています。これらのことから、「全国が取扱量が少ない冬の時期に出荷すると、他の時期に比べて高値で売ることができるから」などとするとよいでしょう。

この問題では、①冬にピーマンを栽培する理由が生産者にとってのメリットとともに書かれているか、②①の内容に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、③表記や表現に誤りがないかどうかを中心に見ています。

(8) **B2** 情報を獲得する 比較 特徴的な部分に注目する 具体・抽象

① 【資料5】から、献立は750キロカロリーに収まるようにすることが求められています。

ごはん220キロカロリー、牛乳140キロカロリーがふくまれますから、「主なおかず」、「その他のおかず」、「汁物」の合計は $750 - (220 + 140) = 390$ キロカロリー以内にならなければなりません。「主なおかず」に「ハンバーグ」、「その他のおかず」に「フライドポテト」を選ぶと、残りは $390 - 170 - 110 = 110$ キロカロリーですから、選ぶことができるのはウの「わかめスープ」、エの「コーンスープ」、オの「みそしる」となります。

② ごはんと牛乳以外の390キロカロリーのうち、「カレー(ルーのみ)」を選ぶと、残りは $390 - 220 = 170$ キロカロリーです。「その他のおかず」と「汁物」で170キロカロリー以内になる組み合わせは、以下の9通りです([]内は熱量)。

(ポテトサラダ[90]・わかめスープ[80])、(ポテトサラダ[90]・みそしる[70])

(大根サラダ[80]・わかめスープ[80])、(大根サラダ[80]・コーンスープ[90])

(大根サラダ[80]・みそしる[70])、(大学いも[85]・わかめスープ[80])

(大学いも[85]・みそしる[70])、(チキンナゲット[90]・わかめスープ[80])

(チキンナゲット[90]・みそしる[70])

③ 「主なおかず」、「その他のおかず」、「汁物」からそれぞれ1品ずつ選んだ上で、「その他のおかず」からさらに「チキンナゲット」を追加すると、熱量がちょうど 750 キロカロリーになる組み合わせを考えます。「ごはん」と「牛乳」と「チキンナゲット」で $220 + 140 + 90 = 450$ キロカロリーとなるので、「主なおかず」、「その他のおかず」、「汁物」の合計

が $750 - 450 = 300$ キロカロリーちょうどになる組み合わせを調べていきます。組み合わせは以下の2通りです([]内は熱量)。

(オムレット[150]・大根サラダ[80]・みそしる[70])、(焼き魚[150]・大根サラダ[80]・みそしる[70])

(9) **B1** 情報を獲得する 比較 特徴的な部分に注目する 具体・抽象

- ① 【資料9】の献立A案を見ると、選ばれた献立は【資料6】のアンケートの順位が1位または、2位のものが入っています。ひろとさんの会話文にも「どれも人気があるものばかりだから」とあるので、(あ)に入れる内容は「アンケート結果で上位に入った料理」などとするとよいでしょう。
- ② A案に使われている食材を見ると、白菜、大根、にんじん、きゅうりなど、よしおさんたちの地元で収かくされる野菜が使われています。このことから(い)に入れる内容は「地元で多く収かくされる野菜」などとするとよいでしょう。
- ③ (う)には(い)で答えた「地元で多く収かくされる野菜」のうち、A案にもB案にも入っていない野菜があてはまります。イの「キャベツ」が正解です。
- ④ (え)には、にんじんやきゅうりと(う)に共通することがあてはまります。これらの3つに共通するのは、【資料8】にある野菜の収かく時期です。会話文から、「みんなが選ぶ給食の日」は12月に行われることになっていることがわかります。よしおさんたちの地元では、にんじん、きゅうり、キャベツは冬に収かくしていません。したがって、「12月に収かくされない野菜」、または「収かく時期がことなる野菜」などとするとよいでしょう。
- ⑤ (お)に入る語句は、会話文中から「長い間食べられてきた^{でんとうてき}伝統的な食事」を意味する語句だと考えられます。「和食」などとするとよいでしょう。

(10) **B1** 情報を獲得する 比較 特徴的な部分に注目する 再現する

A 作業を1つずつ行った場合、かかる時間の合計は $6 + 12 + 7 + 5 + 11 + 17 + 8 = 66$ (分)です。

B 最初に行う作業は①、最後に行う作業は⑦です。また、②は他の作業の間であれば、いつ行ってもかまいません。②を除いた作業の順番は、次のア～カの6通りが考えられます。

	先						後
ア	①	→	③	→	④	→	⑤ → ⑥ → ⑦
イ	①	→	③	→	⑤	→	④ → ⑥ → ⑦
ウ	①	→	③	→	⑤	→	⑥ → ④ → ⑦
エ	①	→	⑤	→	③	→	④ → ⑥ → ⑦
オ	①	→	⑤	→	③	→	⑥ → ④ → ⑦

カ ① → ⑤ → ⑥ → ③ → ④ → ⑦

例えば、②以外の作業をアの順に行う場合、②を行うタイミングは、①と③、③と④、④と⑤、⑤と⑥、⑥と⑦の間の5通りが考えられます。他のイ〜カについても、それぞれ5通りずつ考えられるので、作業の順番は全部で $5 \times 6 = 30$ (通り)考えられます。

(11) **B2** 情報を獲得する 比較 特徴的な部分に注目する 関係づけ 推論

①と⑦は、他の作業と同時に行うことはできません。よって、②〜⑥を最短時間で行うことを考えます。

②〜⑥を1つずつ行った場合、かかる時間の合計は $12+7+5+11+17=52$ (分)です。したがって、2つの作業を同時に行っても、かかる時間は $52 \div 2 = 26$ (分)より短くなることはありません。

さらに、それぞれの作業にかかる時間「分」は整数なので、②〜⑥にかかる最短時間も整数になります。そこで、最短時間が26分になる場合、27分になる場合、…、というように、順に調べていきます。

<26分になる場合>

この場合、1つの作業だけを行う時間がまったくありません。つまり、26分間ずっと2つの作業を同時に行っていたということです。よって、②〜⑥を2組に分け、それぞれの合計時間を26分にできれば、26分で②〜⑥を行うことができます。ところが、12、7、5、11、17をどのように2組に分けても、それぞれの合計を26にすることはできません。よって、26分になる場合はありません。

<27分になる場合>

この場合も、12、7、5、11、17をどのようにたしても合計を27にすることはできません。よって、27分になる場合はありません。

<28分になる場合>

⑤と⑥の合計時間が $11+17=28$ (分)となることがわかります。この場合、例えば次のように28分で②〜⑥を行うことができます。

先 後

⑤(11分) → ⑥(17分)

②(12分) → ③(7分) → ④(5分)

以上より、②〜⑥にかかる最短時間は28分です。

この他にも、⑤→④→②と同時に③→⑥を行ったり、⑤→②→④と同時に③→⑥を行ったりすることでも28分となります。

よって、すべての作業にかかる最短時間は $6+28+8=42$ (分)です。

(12) **B2** 情報を獲得する 比較 特徴的な部分に注目する 関係づけ

ア アンケートの回答数10,361のうち、学校給食が「好き」と回答した人の総計の人数は割合から計算できます。 $10,361 \times 0.462 = 4786.7 \dots$ より、約4787人です。また、「どちらともいえない」と回答した人の総計の人数は $10,361 \times 0.259 = \dots 2683.4 \dots$ より、約2683人で、人数の差は $4787 - 2683 = 2,104$ 人となり、2000人以上です。したがって、正しくありません。

イ 学校給食が「きらい」または「大きらい」と回答した、中学校男子の割合は $3.2 + 2.1 = 5.3\%$ で、中学校女子の割合は $4.4 + 0.6 = 5.0\%$ です。したがって、正しいといえます。

ウ 小学校、中学校で学校給食が「きらい」と回答した割合と「大きらい」と回答した割合を比べると、小学校男子は $1.9 \div 0.7 = \text{約} 2.71$ 倍、小学校女子は $2.5 \div 0.6 = \text{約} 4.16$ 倍、中学校男子は $3.2 \div 2.1 = \text{約} 1.52$ 倍、中学校女子は $4.4 \div 0.6 = \text{約} 7.3$ 倍となります。したがって、正しいといえます。

エ 学校給食が「きらい」または「大きらい」と回答した男子の割合は $2.5 + 1.3 = 3.8\%$ ですが、このアンケートでは男女別の人数が示されていないため、割合がわかっても人数を計算することはできません。したがって、正しくありません。

(13) **B2** 情報を獲得する 特定の状況を仮定する 特徴的な部分に注目する 一般化する

児童・生徒に給食を提供する^{ていじょう}とした場合にどのようなことができるか、具体的な方法とともにその方法が有効である理由を説明する問題です。給食をつくる側に立った時、しっかり食べてもらえるように工夫することや、食べ物や食事に親しんでもらうことなどが考えられます。給食を提供する側の気持ちを想像するなどして、自分なりに考えをまとめてみましょう。

この問題では、①児童・生徒に給食を提供するとき、どのようなことができるか、自分の考えが書かれているか、②具体的な方法と、その方法を選んだ理由が書かれているか、③①、②の内容に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、④表記や表現に誤りがないかどうかを中心にしています。